The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	都市の空間改変事業における「地域文脈」の解読と新たな評価指標の考察-震災復興土地区画整理事業と中心市街地再開発事業を対象として-
Author(s)	杉田, 美和
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/77501
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（　杉田　美和　）	
論文題名	都市の空間改変事業における「地域文脈」の解読と新たな評価指標の考察 −震災復興土地区画整理事業と中心市街地再開発事業を対象として−

論文内容の要旨

近年のグローバル経済の中で、国内外の諸都市における大規模開発の波がおとずれ、都市・地域の固有性の消失が加速化している。また、大災害により多くの構造物や空間組織を喪失する危機にあるとともに、人口減少にともなう都市・地域の縮退の問題にも直面し、これまで築いてきた物的環境の価値や意味が揺るがされる時代になっている。一方で、大災害からの復興や、中心市街地の再生には、土地区画整理と都市再開発といった都市計画的手法が今後も実施されていくことが予想される。このような大規模な空間再編を伴う開発は、地域が継承してきた固有性を喪失するという問題がある。

以上のような都市の更新を前提としながら、大切なものは何か、継承するべきものは何かを、物理的次元にとどまらないレベルで再定義する必要がある。本研究は、継承するべき地域の価値の本質を「地域文脈（地域コンテクスト）」と定義し、開発の前後における「地域文脈」を解読するとともに、それが空間改変を伴う整備手法を評価するための枠組みや指標となりうるかを検証することを目的とした。本論文は次の５章からなる。

第１章では、都市の空間改変や大災害からの復興において、継承するべき大切なものの価値を「地域文脈」として提示し、事象の前後関係としての「連鎖的文脈」と、背景としての「組織的文脈」の二つの性質を備えることを示した。「連鎖的文脈」とは、地域づくり・まちづくりに関わる人々が「普遍のテーマ」を解決するために、解決の仕方を「発展的に」持続させていく連鎖の質や価値である。また、「組織的文脈」とは、地域や都市における社会組織や空間組織に備わる形成原理であり、その成立を背後から支える生活様式の在り方、人々のイメージの在り方をも指すものと定義し、敷地や街区の間に一定の型が見出せること、大きなスケールとの間に連結性が見出せること、さらに、一定の型を継続しながらも、変化（進化）するものと捉えることを示した。

第２章では、「地域文脈」に関する先進的な研究成果を総括し、「地域文脈」を継承するための方法論を系統化した。これを基に、土地区画整理と都市再開発が「地域文脈」を継承するための有効な手法となるために、社会空間の形成過程から空間計画のテーマを設定すること、既存の空間組織と新しい空間組織の調整に対応できる社会組織の再編を行うこと、祭礼や維持管理の継続を促すための空間計画などが必要であることを考察した。

第３章では、阪神淡路大震災による被災から復興を遂げた兵庫県神戸市兵庫区松本地区を対象に、被災前後の市街地変容プロセスの中に「地域に開かれた社会・空間構成への再編」というテーマの「連鎖的文脈」の解読を行なった。松本地区とそれに隣接する上沢地区が相互に影響を与えながら、第二次世界大戦前の木造密集地区の状態から戦災復興土地区画整理、震災復興土地区画整理を経て、公共空間が街区を越えた地区レベルのスケールへと再編されたことを明らかにした。これは、都市計画コンサルタントが市街化の履歴に「空間を開く」という「地域文脈」を読み取り、震災復興で進化させようとした計画意図が功を奏した。記憶と環境イメージの調査から場所形成の履歴を検討した結果、交流や維持管理等のコミュニティの場所が、路地単位のスケールから地区レベルへと再編されたことがわかった。

第４章では、香川県高松市丸亀町商店街における連鎖型再開発事業を対象に、組合や企業組織など社会組織群の間に形成される意思決定、役割分担、資金の配分や循環などの経済システムの在り方を「組織的文脈」と設定し、その解読を行なった。Ａ街区、Ｂ・Ｃ街区、Ｇ街区はそれぞれ再開発の都市計画的な手法が異なっているが、資金の流れと意思決定の関係からみると、共通の型を有していることがわかった。また、再開発手法については、Ａ街区の全員同意型が原型であり、地区特性や経済情勢に合わせて、小規模連鎖型（Ｂ・Ｃ街区）、地上権非設定型（Ｇ街区）へと変化を遂げていることを明らかにした。

第５章では、各章における成果をまとめるとともに、第３章と第４章において、それぞれ「連鎖的文脈」と「組織的文脈」を個別に検討した知見を再統合することにより、「地域文脈」を継承する空間改変型の開発の要件として、空間組織、社会組織、維持管理の仕組み、場所形成、経済システムなどが連動する空間デザインの必要性を提示した。

様式７

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（　杉田　美和　）			
論文審査担当者		（職）	氏　名
	主 査	教授	木多　道宏
	副 査	教授	横田　隆司
	副 査	教授	阿部　浩和

論文審査の結果の要旨

本論文は、これまで建築学、都市計画学の分野において重要性が指摘されながらも、体系的な定義がされていない「地域文脈（地域コンテクスト）」という用語について、既往の先進的な学術的・実践的取り組みを理論的に統合することにより、その概念を明確に定義すること、そして、成功事例として評価の高い、土地区画整理事業と都市再開発の事例を「地域文脈」の観点から再評価することにより、都市や地域の固有性を大切にし、継承するための都市開発のあり方を提示することを目的としている。

第１章では、「地域文脈」に関連する既往の理論や学術的成果をレビューすることにより、「地域文脈」には、事象の前後関係としての「連鎖的文脈」と、背景としての「組織的文脈」の二つの性質を備えることが示されている。前近代・近代・現代と時代を越えて継続されてきた都市・地域計画やまちづくり・地域づくりの中に「普遍のテーマ」が潜在し、人々がその解決の仕方を「発展的に」持続させていく連鎖の質や価値が「連鎖的文脈」である。また、生き生きとした都市・地域の空間組織や景観の成立は、社会組織、生活様式の在り方、人々のイメージの在り方により背後から支えられている。この目に見えない空間形成原理が「組織的分脈」であり、敷地や街区の間に一定の型が見出せること、大きなスケールとの間に連結性が見出せること、さらに、一定の型を継続しながらも、「進化」するものであることが定義されている。

第２章では、土地区画整理事業や、都市再開発に関する既往研究では、「地域文脈」に類する観点からの既往研究が不足していることを示している。また、「地域文脈」に関する先進的な研究成果を総括し、「地域文脈」を解読し、継承するための方法論が系統化されている。これを基に、土地区画整理と都市再開発が「地域文脈」を継承するための有効な手法となるために、社会空間の形成過程から空間計画のテーマを設定すること、既存の空間組織と新しい空間組織の調整に対応できる社会組織の再編を行うこと、祭礼や維持管理の継続を促すための空間計画などが必要であることが考察されている。

第３章では、阪神淡路大震災による被災から復興を遂げた兵庫県神戸市兵庫区松本地区を対象に、被災前後の市街地変容プロセスの中に「地域に開かれた社会・空間構成への再編」というテーマの「連鎖的文脈」の解読を行なっている。松本地区とそれに隣接する上沢地区が相互に影響を与えながら、第二次世界大戦前の木造密集地区の状態から戦災復興土地区画整理、震災復興土地区画整理を経て、公共空間が街区を越えた地区レベルのスケールへと再編されたこと、この要因として、都市計画コンサルタントが市街化の履歴に「空間を開く」という「地域文脈」を読み取り、震災復興で進化させようとした計画意図が功を奏したことを明らかにしている。また、記憶と環境イメージの調査から場所形成の履歴を検討した結果、交流や維持管理等のコミュニティの場所が、路地単位のスケールから地区レベルへと再編されたことを見出している。以上により、市街化履歴、計画意図、場所形成の三つのフェーズにおいて、松本地区の社会・空間構成が開かれてきたメカニズムを考察している。

第４章では、香川県高松市丸亀町商店街における再開発事業を対象に、組合や企業組織など社会組織群の間に形成される意思決定、役割分担、資金の配分や循環などの経済システムの在り方を「組織的文脈」と設定し、その解読を行なっている。再開発手法については、Ａ街区の全員同意型が原型であり、地区特性や経済情勢に合わせて、小規模

連鎖型（Ｂ・Ｃ街区）、地上権非設定型（Ｇ街区）へと変化を遂げているが、契約条件の異なる商業床の一体的運営、配当劣後の資金循環、従前の地権者の経営への参画、最先端のアイデアを持つ人材登用のための組織形成といった広義の経済システムに、共通の型を有していることを明らかにしている。

第５章では、各章における成果をまとめるとともに、第３章と第４章において、それぞれ「連鎖的文脈」と「組織的文脈」を個別に検討した知見を再統合することにより、「地域文脈」を継承する空間改変型の都市開発の要件として、空間組織、社会組織、維持管理の仕組み、場所形成、経済システムなどが連動する空間デザインの必要性を提示している。

以上のように、本論文は、「地域文脈」の概念を明確に定義した上で、「地域文脈」を継承することが、地域社会を生かし、地域運営や経済活動を持続させていく上で有効であることを示している。また、「地域文脈」の継承の観点から、土地区画整理事業と都市再開発事業の有効性やあり方を提示した点で建築工学と都市計画学の発展に寄与すること大である。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。